令和６年度
十勝管内第２回EBE協議会

事例発表

中高接続の視点を踏まえた
組織的な授業改善等に係る取組について

令和６年12月３日

北海道広尾高等学校

本日の発表内容

１　データから見る現在地

２　「広尾地域学」を軸に

３　他校視察で得たこと

４　次年度に向けて

（第１回ＥＢＥ協議会より再掲）

スクールミッションから考える授業改善の視点

「スクール・ミッション」

地域に学び　地域とつながり　地域を支える人材の育成

・異年齢の集団による活動を通じて、自らの個性を伸長するとともに、社会性や豊かな人間性を身に付けた生徒の育成
・地域の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成

重点教育目標　：　コミュニケーション力を高める

それぞれの段階に応じたコミュニケーション力を身につける。
Step1　誰に対しても、明るく元気に挨拶ができる
Step2　他者の考えをよく聞き、自分の考えを伝えることができる
Step3　他者の考えを理解し、相手に伝わるように工夫して表現ができる

地域に学び、地域とつながり、地域を支える

他者の考えをよく聞き、理解する

自分の考えを、相手に伝わるように工夫して表現する

（第１回ＥＢＥ協議会より再掲）

●学力向上に係る課題

自ら考え、判断し、表現するために必要な基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題が見られることから、生徒が個別の知識を既得の知識及び技能と関連付けたり、他の学習や生活の場面でも活用したりしながら確かな知識として習得できるよう、指導と評価の工夫・改善が必要である。

R5確認事項

① 全国学力・学習状況調査（中３）と北海道高等学校学習状況調査（高１）との比較・分析を１つのアセスメント手段とすること。

② 広尾高校のスクールミッションを踏まえ、「広尾地域学」を軸とした、各教科等における探究的な学びを推進すること

● 令和６年度３学年「広尾地域学」（１単位）の開設

目標	⑴ 広尾町における1次産業を題材として、①その現状と課題を把握、②体験を通し、実情を知ること、③課題を解決するために、何ができるのか、考察し、考えを表現するというサイクルの中で、広尾町の現在を知り、向き合うことのできる生徒を育成する。 ⑵ 探究の見方、考え方を働かせ、自分の生活と地域の人々や事象との関わりについて探究することを通し、地域に対する誇りと愛着を高めよりよく課題を発見し、解決していくための資質・能力を育成することを目指す。

広尾町の農林水産業の実態を踏まえたまちづくりの在り方を提案

↑

各教科等

広尾地域学を軸とした、各教科等の探究的な学び

スクールミッションから考える授業改善の視点

「スクール・ミッション」

地域に学び　地域とつながり　地域を支える人材の育成

・異年齢の集団による活動を通じて、自らの個性を伸長するとともに、社会性や豊かな人間性を身に付けた生徒の育成
・地域の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成

重点教育目標　：　コミュニケーション力を高める

それぞれの段階に応じたコミュニケーション力を身につける。
Step1　誰に対しても、明るく元気に挨拶ができる
Step2　他者の考えをよく聞き、自分の考えを伝えることができる
Step3　他者の考えを理解し、相手に伝わるように工夫して表現ができる

地域に学び、地域とつながり、地域を支える

他者の考えをよく聞き、理解する

自分の考えを、相手に伝わるように工夫して表現する

地域

探究

1　データからみる現在地

R5北海道高等学校学習状況等調査（現2年生）の結果より

地域

(2)地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。

回答状況		当てはまる		どちらかといえば、当てはまる		どちらかといえば、当てはまらない		当てはまらない	
回答割合	当校	23.8%	(10.3%)	47.6%	(34.5%)	23.8%	(24.1%)	4.8%	(31.0%)
	十勝	14.6%	(15.2%)	34.6%	(32.6%)	29.8%	(30.7%)	21.0%	(21.5%)
	全道	13.6%	(13.0%)	30.7%	(30.5%)	31.4%	(31.3%)	24.2%	(25.3%)
	R4広尾中	0.0%		22.5%		50.0%		27.5%	

（★当てはまる ＋ どちらかと言えば当てはまる）

中3時（現2年生） 22.5　→　高1終了時（現2年生） 71.4

※管内、全道、前年と比べても数値が高い ＝ 強み

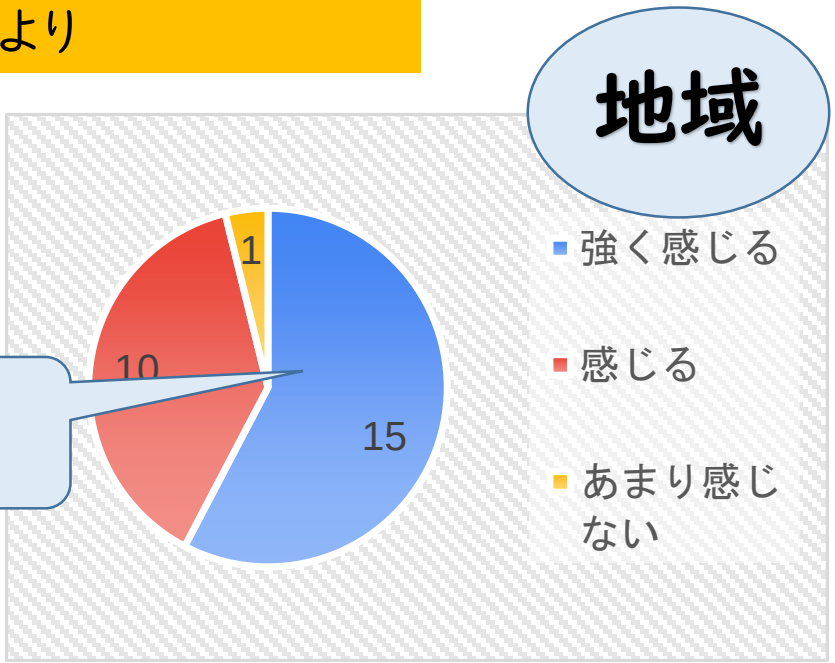
1　データからみる現在地

「広尾地域学」アンケート（現3年生）の結果より

【項目】
広尾地域学によって、広尾町の一次産業への理解が深まったと感じる。

地域への理解は深まっているが、

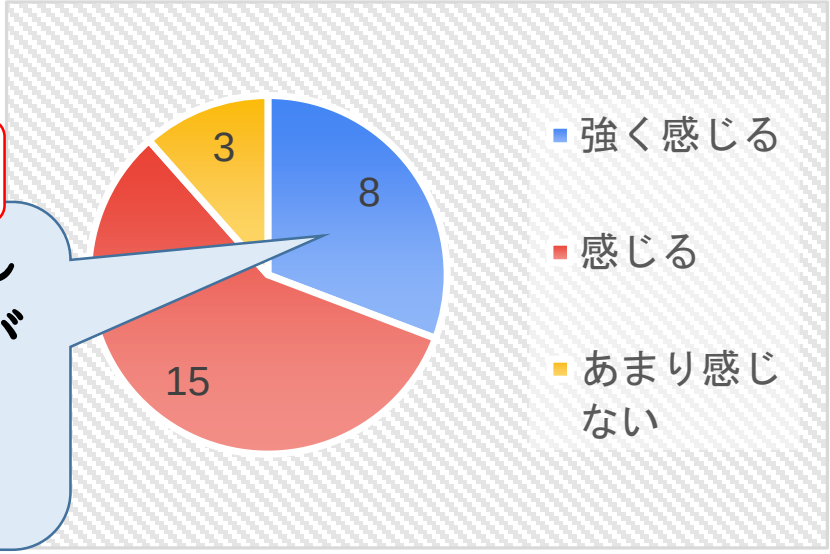
成果



【項目】
課題を見つけ、対策を考えようとする力が高まったと感じる。

課題

自ら主体的に課題を発見し、解決しようとする仕掛けには改善の余地があるのではないか。
（※input中心になっていないか）



1　データからみる現在地

R5北海道高等学校学習状況等調査（現2年生）の結果より

探究

(3)授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

回答状況		当てはまる		どちらかといえば、当てはまる		どちらかといえば、当てはまらない		当てはまらない	
回答割合	当校	19.0%	(20.7%)	52.4%	(44.8%)	23.8%	(24.1%)	4.8%	(10.3%)
	十勝	22.4%	(25.5%)	53.8%	(51.4%)	19.2%	(17.6%)	4.6%	(5.5%)
	全道	20.9%	(20.8%)	52.5%	(51.8%)	20.1%	(20.7%)	6.6%	(6.8%)
	R4広尾中	7.5%		55.0%		30.0%		7.5%	

（★当てはまる ＋ どちらかと言えば当てはまる）

中3時（現2年生） 62.5　→　高1終了時（現2年生） 71.4

※中3時に比べ数値は向上しているが、管内、道内、前年と比べると、「当てはまる」が少なく、「どちらかと言えば当てはまらない」が多い。＝ 継続的に見取りたい項目

1　データからみる現在地

R5北海道高等学校学習状況等調査（現2年生）の結果より

探究

(9)今年度受けた授業では、先生から示される課題や、クラスやグループの中で自分たちで立てた課題に対して、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた。

回答状況		当てはまる		どちらかといえば、当てはまる		どちらかといえば、当てはまらない		当てはまらない	
回答割合	当校	14.3%	(24.1%)	61.9%	(65.5%)	19.0%	(10.3%)	4.8%	(0.0%)
	十勝	32.2%	(36.0%)	49.4%	(47.6%)	14.5%	(12.7%)	3.9%	(3.7%)
	全道	30.9%	(32.4%)	49.6%	(48.1%)	14.5%	(14.5%)	4.9%	(5.0%)
	R4広尾中	10.0%		37.5%		42.5%		10.0%	

（★当てはまる ＋ どちらかと言えば当てはまる）

中3時（現2年生） 47.5　→　高1終了時（現2年生） 76.2

※同様に、中3時に比べ数値は向上しているが、管内、道内、前年と比べると、「当てはまる」が少なく、「どちらかと言えば当てはまらない」が多い。＝ 継続的に見取りたい項目

授業評価アンケート（全教科）の結果より

探究

【項目】
授業では発言や記述などで自分の考えを表現するよう努めた。
（生徒自身に関する質問）

前期平均：　3.65（5段階評価）
後期平均：　3.70（5段階評価）　**0.05↑**

成果？

自分の考えを表現する活動の充実が図られてきているのではないか。

【項目】
授業内に探究的な学びをする機会があった。
（授業に関する質問）

前期平均：　3.68（5段階評価）
後期平均：　3.66（5段階評価）　**0.02↓**

課題？

誤差だが、教科・科目における「探究的な学び」の充実は継続的な課題である。

● 「農業」「漁業」「林業」の３分野を学習

＜農業＞

・各酪農家を訪問し、取り組みの違いを学習

（６次産業・機械化・放牧　etc…）

・モッツァレラチーズ作り

● 「農業」「漁業」「林業」の３分野を学習

＜漁業＞

・昆布（星屑昆布生産者）やウニ養殖を学習

・漁業の課題や改善策を考え、関係者と共有　etc…

● 「農業」「漁業」「林業」の３分野を学習

＜林業＞

・伐木作業見学　・体験学習（枝打ち・薪割り）等

・薪ストーブに関する学習　etc…

生徒による振り返りから

質問：よかったと思うところなどあれば教えてください。

- 広尾町の課題への対応が良くわかった。
- 広尾町の地域の特徴を知ることが、広尾に住んでいてあまりないので、授業をもっと増やして高校生から改善点を求めると広尾がもっと良くなると思う。

質問：改善してほしいところなどあれば教えてください。

- もっと外に出て色々やった方がいいと思う。
- 見るだけで伝わらないところもあった。

質問：学びたいことや体験したことがあれば記述してください。

- 広尾サンタランドでのボランティア活動や、コンブについてもっとやりたい。（※●●について、など具体的な要望あり）
- 体験は話を聞くより広尾を感じることができると思う。

- 「地域×探究」の実践

地域の課題魚を利用した商品開発

スジメコンブを活用して「すじめし」を開発

LOCAL FISH CAN グランプリ 2024 決勝大会出場

● 「地域×探究」の実践

広尾町の特産品でバーベキューとサウナカーを組み合わせたイベントを企画（地域おこし協力隊と企画）

来年の夏休みの実施を目指しているが…

3　他校視察から得たこと

- コーディネーターの配置

（鹿追高校、上士幌高校、羅臼高校）

→小中高の接続および一貫した指導を目指す

持続可能な組織体制の確立

- 総合的な探究の時間として配置（霧多布高校）

→週２単位で内容の充実を図る

- 地域学を学んだことが進路に活きる全体計画（羅臼高校）

→活動や学びが大学での研究や職選びのきっかけとなる

- 地域学

  インプットや体験に留まらない、探究的な活動（調査・整理・発表）を充実させる計画づくり

- 教科・科目等

  本校として身に付けさせたい力を踏まえた単元配列表の作成による、各教科・科目の関連の見える化

- 中高一貫教育

  生徒理解や各科目の授業内容の連携に留まらない、系統的な地域学習の計画・実施や探究的な学びの共有

- 授業アンケート

  生徒の資質・能力の変容を見取るための工夫・改善と分析